

執筆者紹介

加々美 光行

Kagami Mitsuyuki

細谷 良夫

Hosoya Yoshio

マントルト Mandureu

一九三四年生まれ。ダフル族。中国社会科学院民族研究所研究員・学術委員、中国科学院研究生院教授、中国民族学会副会长、中国少数民族现状与发展调查办公室主任。中国民族問題。『中国少数民族民主改革前社会发展水平的再認識』（共著）

高明潔 Gao Mingjie

一九五四年生まれ。モンゴル族。愛知大学現代中国学部講師。中国少数民族の歴史・社会・文化。『内蒙古遊牧社会における妻方居住婚——双系相統社会の一面』『最新教科書：現代中国』（共著）

武内 房司

Takeuchi Fusaji

一九五六年生まれ。学習院大学文学部助教授。『清末土司システムの解体と民族問題』

リティブ・トオフティ Lipi Tohti

一九五三年生まれ。ウイグル族。中央民族大学突厥語言文化系副教授。アルタイ・トルコ言語・文化論。『The Common Altaic Verbal Suffixes in Modern Uyghur』

伊藤 亜人

Ito Ahiro

一九四三年生まれ。東京大学総合文化研究科教授。東アジア・韓国における文化人類学的研究。『読本韓国』『もっと知りたい韓国』

王 永紅

Wang Yonghong

一九六六年生まれ。土家族。東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学（文化人類学コース）博士後期。中国民間信仰に関する社会人類学的研究。『カトリック教のチベットでの早期活動の結果』『The Choice of Ladakhi's Religious Culture under the Lashing of Plural Cultures』

祁慶富 Qi Qingfu

一九四五年生まれ。中央民族大学民族学系・中央民族大学研究生院教授。中国民族学・民族歴史論。『西南夷』『中国少数民族文化通論』（共著）

梅村 坦

Umemura Tan

一九四六年生まれ。中央大学総合政策学部教授、東洋文庫研究員。内陸アジア・ウイグル民族史。『内陸アジア史の展開』『宋と中央ユーラシア』（共著）

曾士才 Zeng Shicai

一九五三年生まれ。法政大学第一教養部教授。中国民族学。『アジア読本・中国』『西南中国におけるキリスト教——ミャオ族とイ族の集団改宗』

藤森 猛 Fujimori Takeshi

一九五八年生まれ。愛知大学現代中国学部講師。中国芸術文化論。『中国の娯楽文化市場——南京市および上海市における映画館、劇場動向』

王 柯 Wang Ke

一九五六年生まれ。神戸大学国際文化学部助教授。東洋史。『東トルキスタン共和国研究』

馬 戎 Ma Rong

一九五〇年生まれ。回族。北京大学社会学人類学研究所所長・教授。中国社会と発展研究センター副主任。民族関係・人口問題論。『西藏の人口と社会』

石尾 喜代子 Ishio Kiyoko

一九四三年生まれ。元日中東北開発協会広報部長。中国社会経済問題。『蘇北の商都ハルビン』『閩門江流域開発』

三好 章 Miyoshi Akira

一九五二年生まれ。愛知大学現代中国学部助教授。日中戦争史、中華人民共和国教育史。『中国八路军・新四軍史』（共著）『改革・開放期における中国の教育体制改革について』

今井 理之 Satohi Iruji

一九四〇年生まれ。愛知大学現代中国学部教授。中国対外経済関係論、中国貿易論。『対中投資—投資環境と合併企業ケーススタディ』『中国経済Q & A 100』

追記 『中国21』Vol. 2、二二二頁の地図「現在の興隆県」は、仁木ふみ子著『無人区・長城のホロコースト 興隆の悲劇』（青木書店、一九九五年）より転載したものです。

中国21 臨時増刊号（98年5月刊予定）

特集 ● 中国における 市場経済化の行方

「社会主義市場経済」を目指す中国は、97年9月の15回党大会において国有企業の株式会社制導入をうたいあげた。今後、改革のテンポは速まると思われるが、それはどのような市場経済なのか。未だ混沌としている問題にせまる。

【対談・インタビュー】

新民主主義か、社会主義初級段階か「李延明×加々美光行」／15回党大会と市場経済化「岡部達味×丸山伸郎」／歴史の大調整時代「于光遠」

【論説】

上原一慶「所有制構造改革と国有企業改革のゆくえ」／南部稔「正念場にきた中国の財政・金融改革」／今井理之「外資政策における“放”と“収”」／浜勝彦「市場経済化と政治体制改革」／張琢「現代中国におけるコミュニケーション」基層組織の変遷」

ほか